

令和6年度農作物鳥獣被害防止対策研修 クマ対策について ～出沒対応を考える～



澤田誠吾
(島根県西部農林水産振興センター 県央事務所)

本日の内容

- ①ツキノワグマの基本生態と被害実態
- ②保護管理のポイント
- ③出没を抑制するための考え方と被害対策
- ④出没対応について（関係機関の連携）

■ : 環境省(2004)の分布確認地点

■ : JBN調査による分布拡大地点

日本クマネットワーク(2014)「ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡大縮の現状把握と軋轢抑止および危機個体群回復のための支援事業」報告書より引用。



クマ類の分布状況

ツキノワグマの基本的な生態

- 朝方と夕暮れ時を中心に行動。
- 植物を中心とした雑食性。

しかし、ばったり遭遇したり、追いつめられると、相手を一撃して逃げようとします。

(食べ物への学習能力が高く執着する)

- 12～4月頃まで樹洞や土・岩穴で**越冬**し、この間にメスは普通2頭の子を産む。
- 寿命は20年程度。
- **子グマを連れた母グマは強い！！**
- **一般に考えられているよりも臆病で、おとなしい性質。**

ツキノワグマの身体能力

体重:オス60～130kg メス40～80kg(体重は季節によって大きく変動します)

体長:オス110～130cm メス50～60cm

目

視力はあまりよくありません。

口

噛む力は非常に強いです。

鼻

嗅覚は優れており、犬並ともいわれています。

月輪

白い月の輪は個体ごとに形が異なります。模様がないクマもあります。

爪

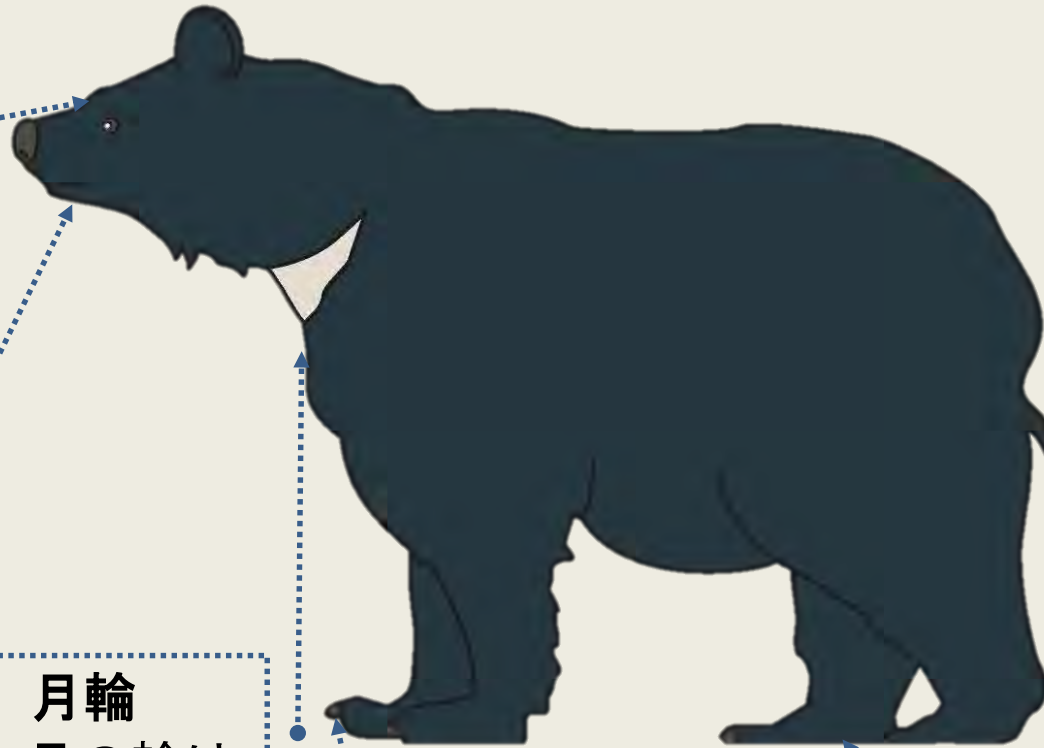
爪は鋭くて木登りが得意です。クマにとって最大の武器です。

尾

短くて目立ちません。

脚

100mを6秒台で走るともいわれています。泳ぐことも得意です。



冬眠

出産

冬眠中は何も食べません。

12～4月頃まで冬眠します。
冬眠中にメスはふつう2頭
の子グマを出産します。



冬

春

体力
回復

ブナやコナラなどの新芽、ササ、ハナウド、フキなどの草本



子グマは1歳半頃
まで、母グマと一生
に生活します。



秋

夏

栄養
蓄積

コナラ、ミズナラ、クリなどの堅果類、クマノミズキ、クロキ、サルナシなどの液果類



冬眠に向けてたくさん
食べます。十分に栄養
をとることができたメス
だけが妊娠します。



繁殖

ハチ、アリなどの昆虫類、ヤマザクラ、クワなどの液果類



繁殖期になるとオ
スが活発に活動
するので行動域
が広がります。



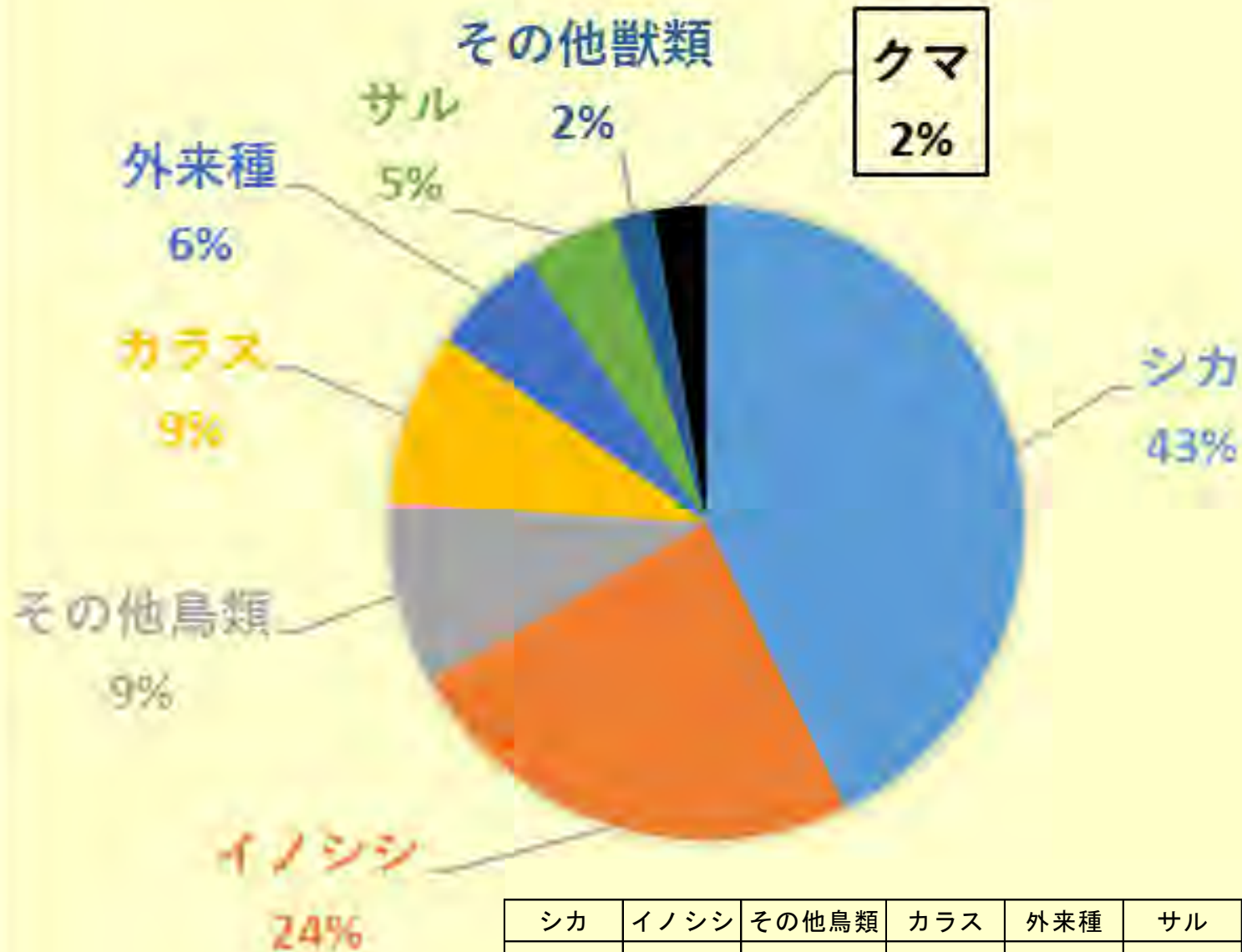
ツキノワグマの行動の特徴

- ・行動範囲（個体差が大きい）。

オス（成獣）⇒40～70km²、メス⇒20～30km²

- ・特定のなわばりをもたない。
- ・夜行性と思われがちですが、森に暮らすクマは昼行性。しかし、人里に下りてきて活動するときは、人との接触をさけるために夜行性になることが知られている。

※堅果類などの餌資源が少ない年には餌を求めて行動圏が2倍以上に拡がり、「大量出没」となることが多い。



(単位：百万円)

シカ	イノシシ	その他鳥類	カラス	外来種	サル	その他獣類	クマ
6,499	3,638	1,413	1,343	868	714	316	407

野生鳥獣による農作物被害金額(2022年度)
農林水産省HPデータより作成



養蜂巣箱の被害



民家庭先の力キ木の被害



クリの被害



コメの被害



ニワトリの被害



民家の壁に営巣
した蜂巣の被害





濃厚飼料の被害



コンポストの被害



クマ類の捕獲数（許可捕獲数）【速報値】 2024年度4月末現在

環境省HPデータより作成



クマ類による人身事故件数【速報値】 2024年度4月末現在

環境省HPデータより作成